



土岐市  
TEL  
FAX  
メールアドレス  
所  
発行責任者  
発行日  
題

教育研究所  
0572-54-1111 (内371)  
0572-55-6310  
kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.555  
所長 三宅 裕一  
令和3年1月25日  
山田 恭正 教育長



## 『秋 見つけた!』

撮影者 妻木小学校附属幼稚園  
杉山 加純 先生



## 子どもたちに「夢」を語る教師に

土岐市教育研究所長 三宅 裕一

新しい1年が始まりました。今年は、「丑」年。十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い丑(牛)の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。また、十二支の2番目の干支であることから、子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、まだ結果を求める時期ではなく、結果につながる道をコツコツと作っていく基礎を積み上げていく時期とも言われています。コロナ禍の中、まだまだはっきりとした先が見えない状況ではありますが、丑(牛)の年は、黙々と目の前の自分の仕事をこなすことが将来の成功につながる、と考えるとよいようです。

新しい年には、子どもたちはそれぞれに、それなりに気持ちを新たにしています。子どもたちの持っている「夢」や「希望」、そして「目標」を口に出して言う、というようなことも決意を実行に移すのだという意味で大切かもしれません。しかし、それよりも大切なこと……。それは教師自身が「夢」「希望」「目標」を持つことだと思います。そして、それを子どもたちの前で語るということだと思います。

「夢」「希望」「目標」などは子どもの時に持つもので、大人はそんなものほどかにおいてきてしまったと、思っていないですか。そんな大人の姿を見て、現実の生活の中で「大人はそんなものは失ってしまった。だから『夢』や『希望』など持ってもしかたない」と子どもたちが思ったとしたら、大きな問題です。「残念なことですが、多くの子どもたちが、生活の厳しさや保護者の仕事の大変さは耳にしても、将来のことについて語り合うなどといったことがほとんどないというのが現状のようです。家族みんなで食事をしながら語り合う機会があったとしても、テレビに視線は釘付けで、話しどころではないといった現実もあるのでは……。

だからこそ、家族以外で一番身近にいる大人＝教師がまず、「夢」「希望」を語ってほしいのです。教師自身が子どもの頃に抱いていた「夢」、大人になった今持っている「希望」「目標」について語ることで、子どもたちにいくつになっても「夢」「希望」「目標」を見失うことなく、それを叶えていくために一生懸命生きることの大切さを教えていただきたいと思います。



## 1 研究テーマについて

西陵校区では『基礎学力の定着』を共通課題とし、すべての児童生徒が確かな学力を身に付けるよう「みんなができる、みんなのできるようになる西陵校区の授業づくり」とテーマ設定した。

## 2 三校で共通して取り組む研究内容

どの子にも確かな学力が定着するように以下を共通の研究内容として位置付けた。

- I 授業終末部における評価活動の位置付けと「みんなができる」ための学習活動の工夫
- II 主体的に学ぶ学習集団の育成

## 3 研究内容 I について

1 単位時間の中で身に付けさせたい力を、すべての児童生徒に定着させるために、授業の終末に評価活動を位置付け、見届けを行うことを共通実践とした。さらに、全員参加・全員理解を支える学習活動の工夫として小集団交流を取り入れた。

### 【妻木小 4年 算数「広さの表し方」】

1 単位時間で身に付けさせたい力を「広さは、1 辺が 1 cm の正方形をもとにしていくつ分で考えたとよい」とし、評価問題を「花壇を写し取った広さを 1 辺が 1 cm の正方形のいくつ分で表す」とした。

児童は、図形を写し取り、重ねてはみ出た部分を比較することはできたが、1 辺が 1 cm の正方形をもとにするという考えには至らなかった。そのため、教師が意図的に教科書から新たな解決方法を提示し、「どうして、つばさくんのやり方だと分かるのか話してみよう。」とトリオ(3人)交流を行った。この交流は新しい考え方を理解する意図で行い、「(か)は 1 cm の正方形 15 個で、(き)は 1 cm の正方形で 16 個で、だから(き)の方が大きい」と、1 辺が 1 cm の正方形をもとにする考え方とそのよさを理解することができた。

### 【下石小 3年 算数「分数」】

1 単位時間に付けたい力を「基にする分数いくつ分かで考えれば整数のようにひき算ができる」

とし、評価問題を  $\frac{5}{7} - \frac{2}{7}$   $1 - \frac{2}{5}$  とした。

どの子も評価問題を達成できるように全体交流で「分数のひき算は、どうすれば整数みたいに考えられるでしょう」と深めの発問を行い、 $\frac{1}{5}$ を基に考えればよいことを理解させた。さらに、分母に合わせて 1 を分数に直さなければならないことを全員に理解させるために、2 往復のペア交流を取り入れた。ペア交流で自分の考え方をどの子にも説明させ、さらに 2 往復話すことにより、1 回目はうまく説明できない児童が、ペアの子の説明を聞いて、自分の言葉で話す姿が見られるようになった。そのため、評価問題では、すべての児童が正しく問題を解くことができた。

### 【西陵中 2年 数学「三角形と四角形」】

1 単位時間で身に付けさせたい力を「直角三角形の合同条件を使って、性質を証明として書き表す」とし、評価問題は自分の伸びを実感できるよう授業の中で取り組んだ図形と同様な図形で証明を行った。

西陵中学校では、生徒が自主的に小集団グループをつくり、生徒同士が双方向の交流を行うことで全員理解を目指している。双方向の交流では、自分の考えを互いに交流し、内容の理解を深めたり、数学的な考え方を高めたりした。さらに、大型提示装置を活用し、誰がどの課題を解決できたかを示し、互いに取組状況が分かるようにした。証明の表現の中で対応する辺の書き方が分からなかった生徒は、仲間のアドバイスを聞くことで自分の考えた対応順で表現すればよいことに気づき、自分なりの言葉で証明を書くことができた。

## 4 研究内容 II について

3 校の教職員が小中 9 年間の学びを見通した指導ができるように「学び方の指導」「学習規律」を共有している。教師が定期的に自分の指導を振り返ることで、確実にできるようにして次の学年へと進級させ、学び方の定着を図っている。

【学力向上推進委員会の取り組みから】

## 令和2年度 肥田小学校の実践報告

学力向上企画委員 肥田小学校 塚本 真優

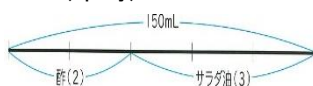
### 小学校6年生 「比」

#### 1 終末の姿の具体化

(前時)



(本時)



(前時)の問題では、 $3 : 4 = x : 36$ のように、比と量が線分図上で対応するようになっている。しかし、(本時)は、全体の量を分ける比は示されているが、その比に対するそれぞれの量は示されていない。そこで、本時のねらいを以下のように設定した。

【本時のねらい(第8時/全9時間)】

比の性質や比の値に着目して考え、全体の量から示された比にあたる量を求めることができる。【思考・判断・表現】

#### 2 明確な課題の設定

主体的な学びを生み出すために、

- ①「わからないこと」「求めなければならないこと」を明確にすること
  - ②「何を」「どうすれば」答えを導き出すことができるか、見通しをもてること
- の2点が大切であると考え。そこで、授業の始めに以下のような対話をするすることで、①②を明らかにすることができた。

T：前の問題の線分図とちがうことは何？

C：比と量がセットになっていない。

T：セットになっていないってどういうこと？

C：前の線分図は、 $3 : 4$ の上に  $x : 36$  があったけれど、今日のは比に2つ数字があるのに、相手が1こしかない。…①

C：全体の量になっているんじゃないの？

T：全体の量ってどういうこと？

C：比の目盛りを全部足したら全体の量の比になるよ。

C：そうしたら、昨日の式みたいに  $\bigcirc : \triangle = x : y$  の式になるね。…②

C：比とセットになった。

T：そうすると、今日求めることは何？

C：全体から、分けた分を求める。

C：比を足して使う。

《課題》全体の量と、それを分けた比がわかっているとき、分けた量を求めるにはどうすればよいだろうか。

児童の疑問や思考の流れに沿って課題化していくことで、解決に向けた見通しをもたせることにもつながった。

#### 3 今後の実践に向けて

今年度の全校研究会(算数科)で、以下のようなご指導をいただいた。

##### ●ねらいを明確化すること

「授業の終末に、子どもの言葉で何を語らせたか？」という教師の願いが授業の根幹。考えは多岐にわたって当然だが、授業のねらいから大きく外れるもの(戸惑いを生むような考え)は、板書しないほうがよいこともある。考えの集約がスムーズに進むよう、板書もねらいを絞って精選していくとよい。

##### ●「何をおさえなければいけないか？」

どの子も自分の個人追究の結果に自信とこだわりをもっている。それを「は・か・せ・どん」(速い・簡単・正確・どんなときも使える)の形に集約し、全員が納得できるようにするのが教師の役目。どう納得させるか？どの子も「だからそのやり方でやるといいんだな」と納得できるような発問や言葉を考えて授業に臨むとよい。

明確な課題を設定することにより、児童が見通しをもって学習しやすくなること、教師が授業の出口を意識して学習活動を仕組みやすくなることを実感することができた。今後も継続して実践していきたい。

【学力向上推進委員会の取り組みから】

## 令和2年度 肥田中学校の実践報告

学力向上企画委員 肥田中学校 日置 貴大

本校では「学びに向かう力を育む、対話的な授業づくり」を研究主題として掲げている。

しかし、今年度は生徒同士の対話の場面が制限され、今までよりも交流の場を設定できない現状であった。そこで、生徒が個人で追究する場面が増えたことを生かし、課題化までの流れの工夫と、終末の姿を明確化することによる授業改善を目標として研究を行ってきた。その中で1年理科の実践を紹介する。

中学校 第一学年 理科「身のまわりの現象」  
「第1章 光の世界 ～光の屈折～」

### 1 終末の姿の具体化

本単元では、身近な自然現象の仕組みや原理を考えさせることで、日常生活で生きる科学的な見方・考え方を養うことを目標にしている。本時のねらいは、光が透明な物体から空気中へ進む場合、物質の境界面で屈折することを理解・説明することである。導入では、水の入った水槽に定規を入れ、外にある定規との見え方の違いに気付かせ、光の進み方の予想を立てた。



【写真①】授業の導入で光の屈折を観察する様子

終末の活動では、導入で行った実験について、本時学習したキーワードを使って説明する場を設け、学びの確認を行った。導入と終末をつなげた授業展開を行うことで、生徒がより日常とのつながりを実感できるようにした。

### 2 明確な課題の設定

生徒が主体的に学んでいくためには、教師が単元全体の流れを理解した上で、本時で身に付けさせたい力が明確になっているか、課題が生徒の中に落ちているのかが重要であると考えた。そこで、本時では導入の実験を行った後、生徒の言葉をもとに課題設定を行った。導入で扱った「水中から」という言葉で表現する部分については、「透明な物質」という言葉を使うことで、事象を一般化し、規則性を見い出せるように課題を設定した。

本時の課題

透明な物体から空気中へ光はどのように進むのだろうか。

また、本時ではあえて入射角と反射角の角度については触れず、光がどのように進むのかという視点に絞って授業を行ったことにより、「どこで」「どのように」屈折したのかという点に多くの生徒が着目することができた。



【写真②】キーワードを使って説明する様子

### 3 今後の実践に向けて

考察を発表したり、本時で学んだことを使って説明したりする場面で、生徒が自分の考えを話すことに躊躇する場面が見られた。今後、各教科や学級において、自分の考えを話す場を意図的につくり、「伝える経験」を積ませることで、さらなる学力向上につなげたい。

## 「コロナで忘己利他」

濃南中学校 教頭 加藤 明覚

学生だった頃、私はお寺から理系大学へ通って  
いました。その大学では仏教学については学ぶ機  
会はありませんでした。しかし、毎日の夕食時が  
師匠と一緒に過ごし学ぶ貴重な時間でした。その  
時々の社会事象について、私たちはどのように生  
活していけばよいのかを学ぶ機会としていました。  
そのとき学び、今も大事にしていることの1つに  
「忘己利他」があります。「もうこりた」と読みま  
す。これは「己を忘れ他に利する」とも読みま  
す。時折思い出しては実践しているところです。こ  
こに書かれている通りなのですが、これは、「自分  
を置いてでも他の人のために役立つことをしな  
さい。」ということではありません。人を大切にす  
ることは自分をも大切にすることなのです。

冬休み前集会の折、生徒会がめざす5本柱の内  
「挨拶」について話をしました。今年は、マスク  
着用のため、素顔が見えず、どんな表情で挨拶を  
しているのか想像をするしかありませんでした。  
しかし、目を見ると表情が伝わってきました。優  
しい眼差しで挨拶をされると、挨拶をされる側も  
優しい気持ちになれます。相手を思いやって行  
う所作は人のためになるのです。今年度はボラン  
ティアとして地域に貢献する機会が少なかったけ  
れど、このコロナの時代に今まで気付かなかった事  
に気付き、互いの行動に感謝する姿が増えたよう  
にも思います。コロナに「もう懲りた」ならぬコ  
ロナで「忘己利他」となる私たちとなることを願  
っています。

### 掲 示 板

#### ◇令和2年度 第59回全日本学校歯科保健優良校表彰

【優秀賞『文部科学大臣賞』】土岐市立土岐津小学校

#### ◇令和2年度 東濃地区学校図書館教育賞

【優秀賞】土岐市立泉小学校（読書利用）

【努力賞】土岐市立下石小学校

#### ◇令和2年度 学校歯科保健功労者表彰

田口 里美 養護教諭（肥田小学校）

#### ◇令和2年度 岐阜県青少年読書感想文コンクール

【最優秀賞】小山 悠琉希（土岐津小2年）

#### ◇令和2年度 岐阜県愛鳥週間ポスターコンクール

【優秀賞】山田 玲也（土岐津中3年）

#### ◇令和2年度 岐阜県こどもけいさつ絵画コンクール

【優秀賞】宍戸 柚葉（駄知小4年）

#### ◇中学生『ものづくり』作品コンテスト岐阜県大会

【I部門優秀賞】水野 隼人（濃南中2年） 【I部門入選】長江 美月（濃南中2年）

【II部門優秀賞】和田 有紗（土岐津中3年）【II部門入選】船戸 愛未（西陵中2年）

おめでとうございます！

